

ズク マヨ ル

PM



DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



静かで厳かな
冥界のお屋敷の
一室で

あーん

PM 12:54

いささか雰囲気
似つかわしくない
女性の嬌声が響き渡る

日はまだ
昇りきったばかり
だというのに

着物も乱れ
あられもない姿の
亡霊の姫君と
獣のようにまぐわっていた

いつもは
掴みどころが無く
ふわふわとしているが

姫という言葉に恥じない
しっかりとした
淑やかさや上品さを併せ持つ
彼女からは
考えられない激しさだった

唐突な
彼女の変わりようは
遡る事
小一時間ほど前



紫も一緒に
三人で
戯れていた時

そろそろ...

ちゅ...♡

ちゅ...♡



そろそろお仕事も
終わるから...

ちゅ...♡

今夜辺り
そろそろお屋敷の方に
戻りましょうか

わ...♡



ア...♡

それを
聞いてからと
言うもの

まるで
離れたくないと
言わんばかりに
彼女はより一層
私を求めるようになった

紫様が仕事に戻った今でも
こうして二人で
情欲に乱れているのである

流石に
お互い疲弊してくると
我に返ったようで

ごめんなさい
私ったら……

いえいえ

幽々子様も
あんなかわいい顔
なさるんですね

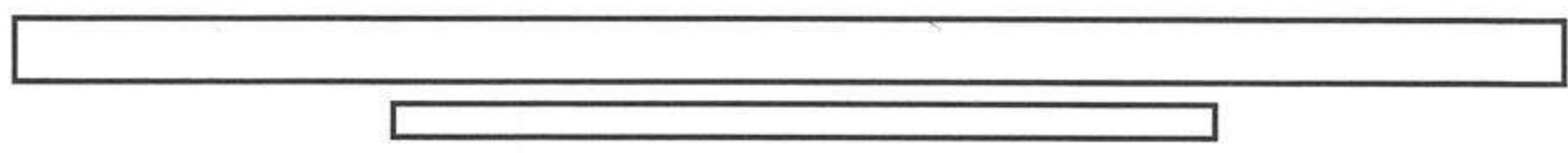
先ほどの
自分の嬌態を思い出し
赤面する幽々子を
後ろから抱きとめる

オレが♡

すると
大きな腹の虫

そういえば
お昼も
まだでした

そうね……
それじゃあ
一緒に……





遅れるだけなら
いざ知らず

返す言葉も
ございません

藍様との
お昼ご飯の約束に
べて一時間十八分の
大遅刻である

他の女との
情事の匂いを隠さず
『遅れてきました』は
いささか
失礼すぎやしないか？

PM 13:48

↑待ちくたびれて寝てる橙



まったくと
呆れられながら
お仕置きのキスをされた

ちなみに
間に合った場合は
ご褒美のキスが貰える



しつこい
ようだが……



藍様が作ってくれた
お弁当に
舌鼓をうっていると



藍様の
真っ直ぐな瞳が
こちらの瞳の奥底を
覗いてくる

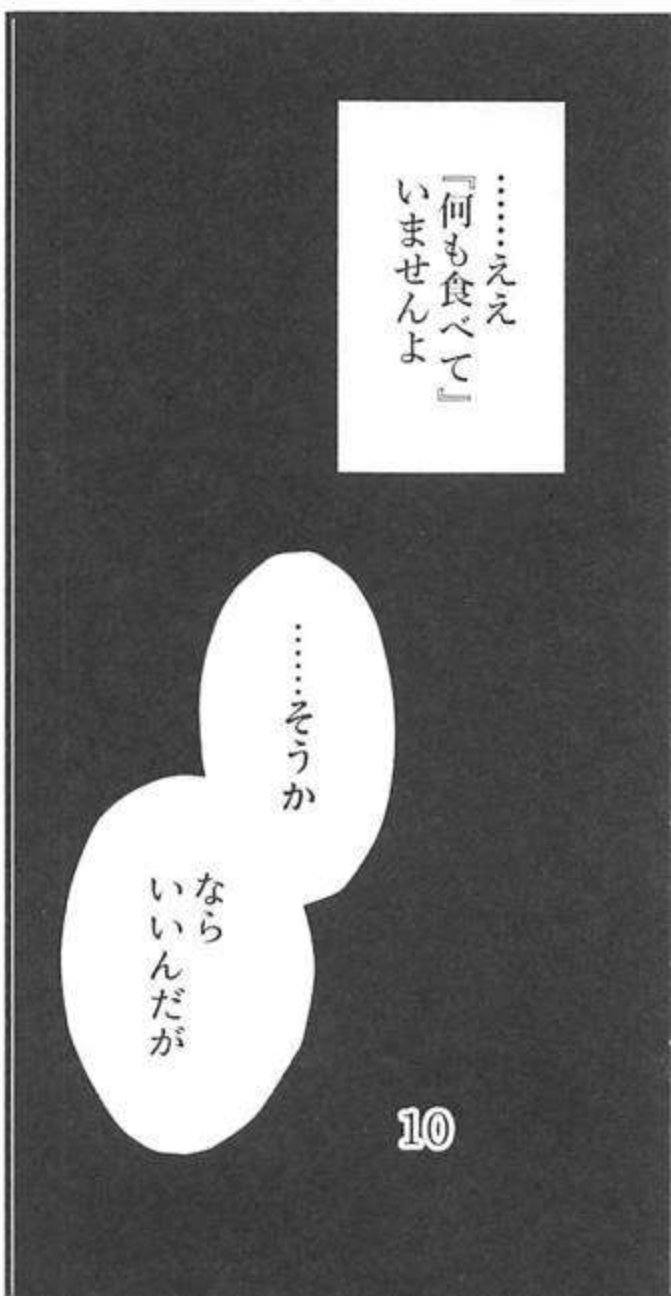


『何も食べて』
いないだろうな？



まあ私の料理は
冥界の物ではないし
安心して
食べるといい

愛情
たっぷりだからな



……ええ
『何も食べて』
いませんよ

……そうか
なら
いいんだが

なるほど

ところで
食べ始めてから
身体が不自然なほど
元気になってる
気がするんですが

これも
愛情ですか

安心してくれ

きちんと愛を込めて
調合してるから
副作用の心配もないぞ

えー

PM 14:11

薬の効果が
出てきたのか
だんだんと
我慢が効かなくなり

食べきった時には
藍に後ろから
覆いかぶさっていた

お仕事がある
んだけどなあ

やや力任せに
たわわな双房を
好き放題採みしだき
柔らかい身体を堪能する

おははは

そのまま近くの木に
手をつかせ
張り詰めていた愚息を
お構いなしに挿入する

少し吃驚が混じった
嬌声とは裏腹に

私の形を完全に覚えた
藍の膣内は
柔らかく包み込んでくれた

そのまま
何度も何度も
腰を打ち付け

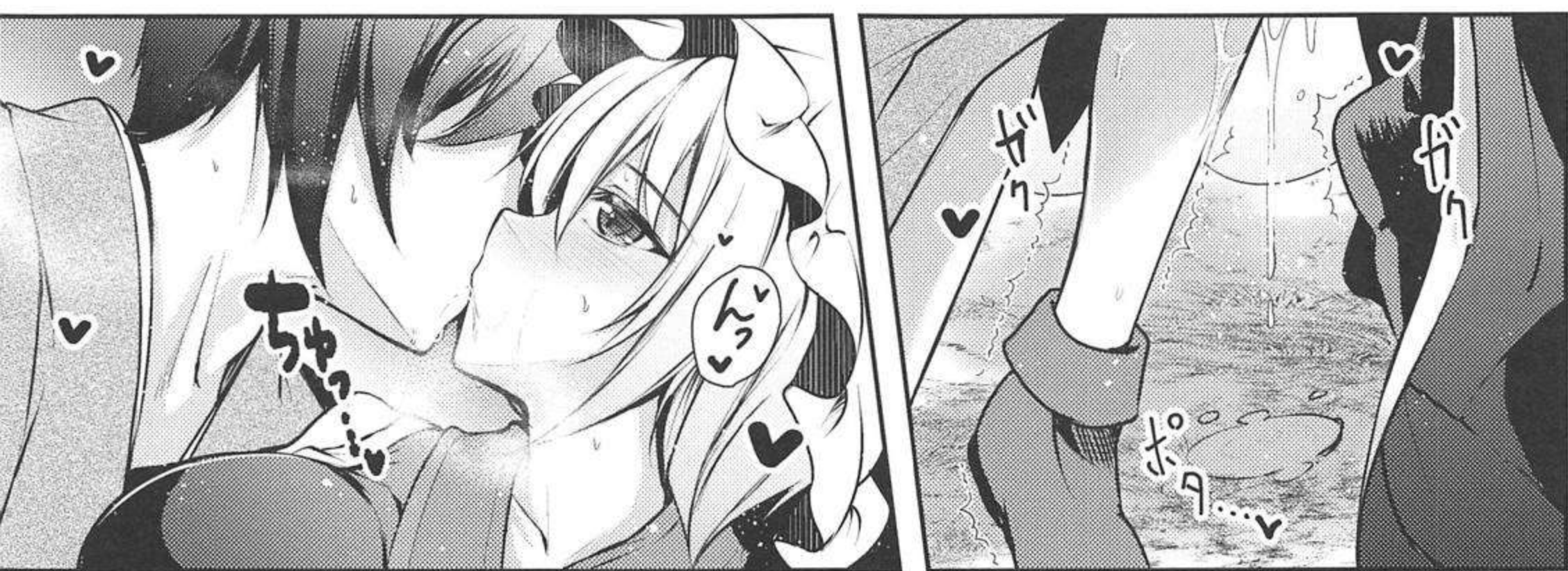
喜んで
欲迎してくれる
彼女の身体を
存分に味わう



藍の身体を
押し潰すように
腔内の最奥まで侵入し

容赦なく欲望を
吐き出していく

絶頂に合わせ
藍の腔内が小さく痙攣し
下半身がまるで
吸い込まれるような
気持ち良さが駆け巡る



ふふ……
満足したか…?

午後も良い子で
待ってるんだぞ…?



宛行われた部屋の
片付けや帰り支度を
している

し……
失礼します……

妖夢と幽々子が
部屋にやっつけてきて
開口一番

PM 15:39



その……

「おっばいの時間」
です……
ご奉仕に参りました……

なんて？



そのっ 定期的に
おっばい吸わないと
全身から血を吹き出して
死ぬって本当ですかっ

でしたらもっと早く
言ってくださいねば
私もご協力をっ

性癖のこじらせ方が
預かり知らぬ所で
どんだん凄い物に
なっていく

とりあえず
慌てる妖夢の
誤解を解いた後

せっかくなので
そのままおっぱいを
頂くことにする

服を肌蹴させ
胸を露わにさせると
妖夢の身体が
小さく震え始める

いい感じに
嗜虐心が刺激されたので
そのお礼として
妖夢の清純な身体を
舌で丹念に汚していく

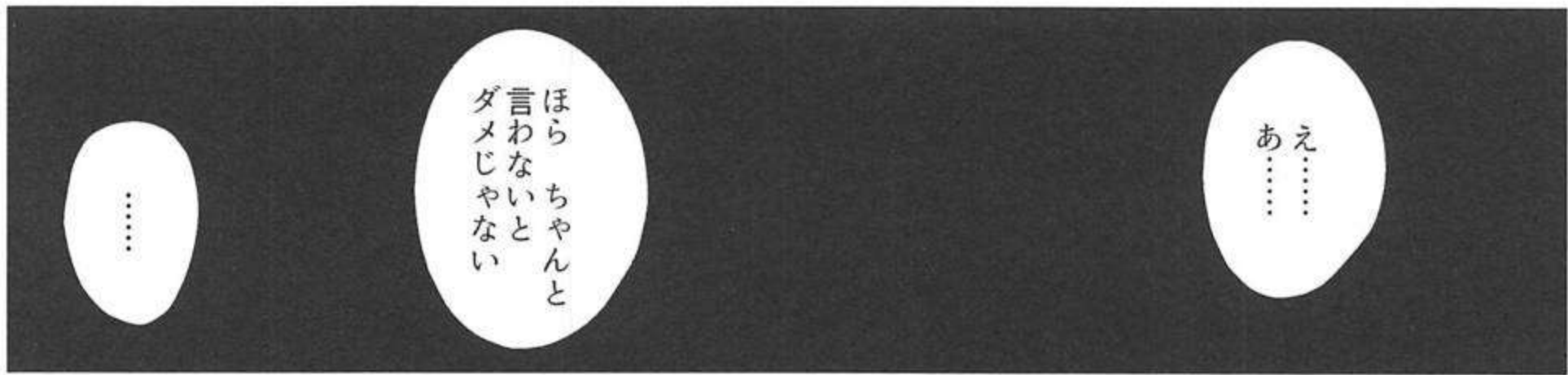
少々小振りだが
外見相応に育った
膨らみを
優しく撫で回し

先端の果実に
思う存分吸い付きながら
舌でねぶり回していく



あなたの おっぱいで
こんなに
興奮してくれてる
みたいよ？

うふふ
妖夢？



あえ……

ほら ちゃんと
言わないと
ダメじゃない

……



PM 16:11

どうか……
帰る前に……

もう一度だけ
寵愛を……
頂けませんか……？



……
ふしだらな女で
申し訳ありません

仰向けにした妖夢の股を
ぐいと開かせ
愚息を最奥まで挿入する

恥辱的な体勢を
無理矢理取らされ
恥じる妖夢の反応が
ますます興奮する

そのまま
自分本位の勢いで
一方的に
腰を叩きつけるが

妖夢の四肢は
さらに快楽を
受け止めようと
身体に巻き付いてくる

こちらも
妖夢の腰を浮かせながら
脚をがっしりと固め

ははははは

女としての快楽を
体内の五臓六腑
全てに刻み込み

孕ませんとばかりに
最奥を押し潰しながら
子宮に大量の欲望を
流しこむ

そのまま
期待の目で傍観していた
幽々子を抱き寄せる

少し強張ったが
キスを落としてやると
すぐにとろけた顔になり

こちらの首に
手を回し

より深く
繋がる事を
所望される

PM 16:59



PM 18:02

ええ
またいらしてね

……それでは
お世話になりました



まるで隠すかのように
幽々子様からこつそりと
何かを手渡される

あと……
最後にコレを……

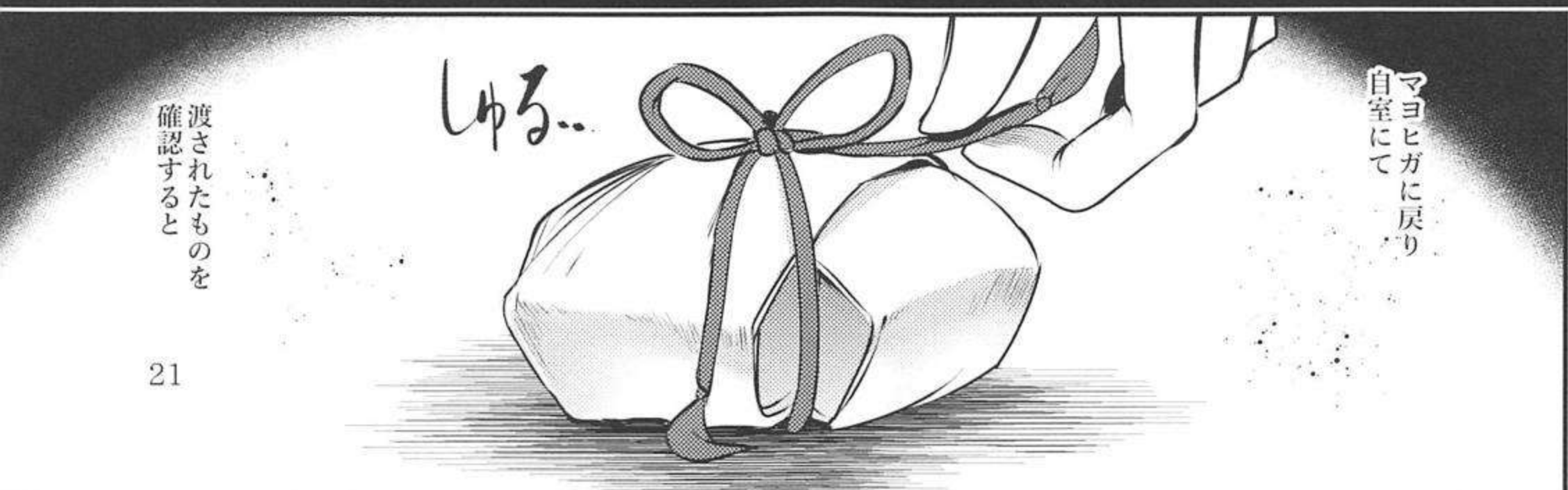


……お家に
帰ってから
一人で開けてね

ニコ…

添えられた手は
少し震えながらも

静かな力強さを
確かに感じた気がした



マヨヒガに戻り
自室にて

しゅる…

渡されたものを
確認すると

それは
一つのお菓子だった

おそらく
幽々子お手製の
ものであろう

冥界での食事は
藍様が用意してくれたものしか
口にしていなかった

人間が下手に
黄泉のものを食べると
そこから帰って
来れなくなってしまうからだ

確か
黄泉竈食ひと
言ったか

口には出さぬとも
その事は
皆が理解していた

それこそ
お世話になる日から
全員で細心の注意を
払うほどに

だから……
これを渡す
という事は

幽々子は
現状からの
脱却を望んでいるのか

あるいは……

彼女も……
私のことを……

ともあれ
理由の如何に問わず

これは
愛を知らなかった
彼女が示す

精一杯の
「覚悟」である

この
黄泉竈食ひを
紫に見つかるう
物ならば

如何に彼女たちが
古くからの
友人同士と言えども

おおよそ
目を覆いたくなる
光景になるのは
容易く想像できる

それでも彼女は
「覚悟」を示した

それがこの
手渡された
黄泉竈食ひ

だが……

私には
受け入れることは
できないのだ

愛を知らない少女が
絞り出した
決死の「覚悟」

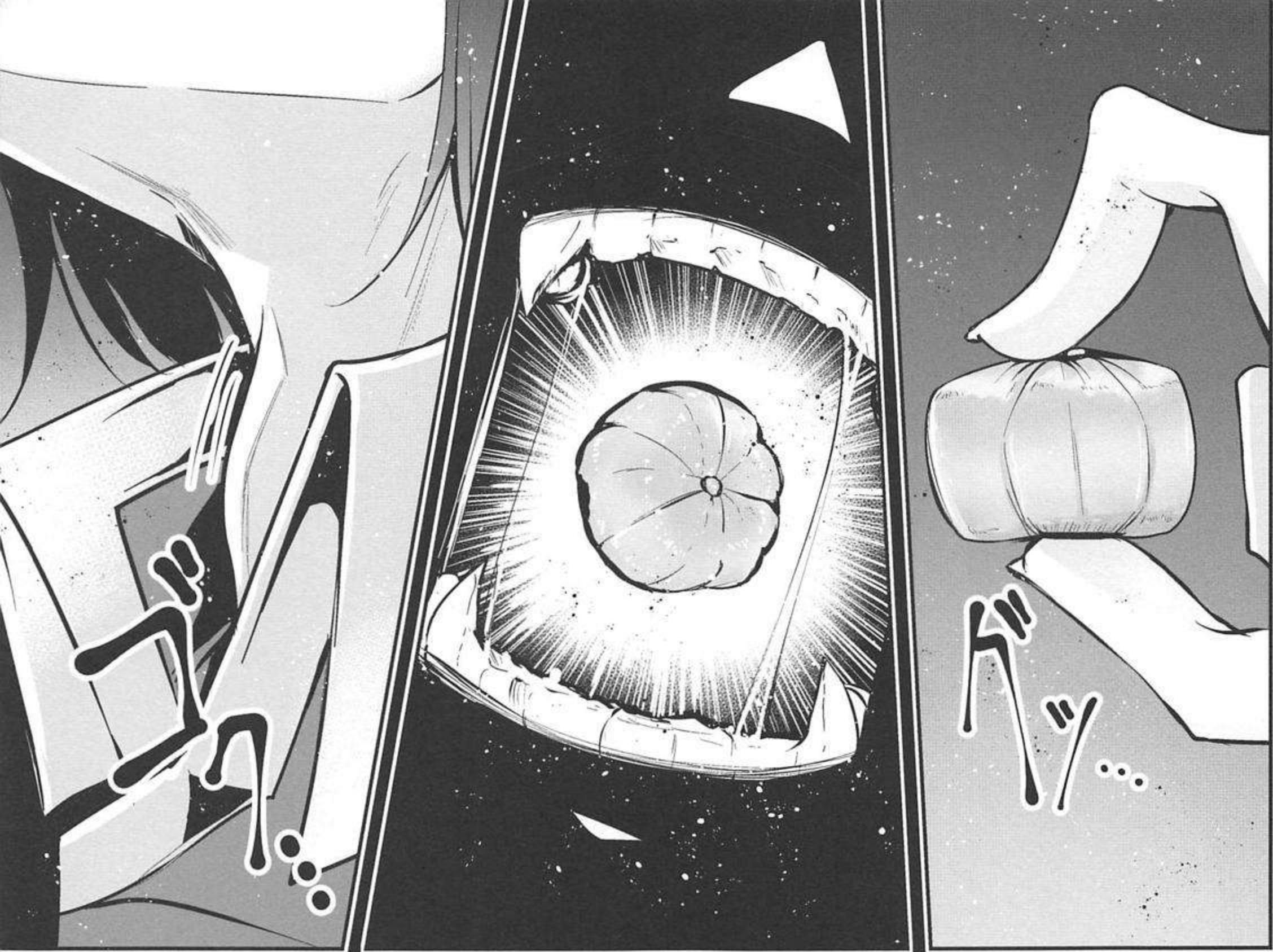
私には

その覚悟を
踏み躪る事しか

いつから……

橙……?

……?



『何も
気づかなかった』


……お兄さんは

幽々子様の
思いも、覚悟も、
何もかも。

何も気づかぬ
まま……

貰ったお菓子を
『偶然』にも
いたずら妖怪に
見つかり
食べられてしまった

それで、おしまい



お兄さんは
誰の思いも
踏み躪ることもなく

誰も
傷つけてさえ
いません

ただ、気づかないうちに
全部終わった
だけなんですから

それで、
おしまいなんです



さ
行きましょう

今夜も
紫様と藍様が
お待ちですよ♪

AM 00:00

彼女たちは

畜生に落ちることすら許さない。

終

ハクマヨスケジュールPM

2018年 12月30日 初版発行
コミックマーケット95

発行・制作

みどりねし

midori0014@gmail.com

みどり

<http://www.pixiv.net/member.php?id=76139>

<https://twitter.com/midori14>

印刷

栄光印刷

謝辞

ZUN(上海アリス幻楽団)

みどりねし